四国・水こぼれ話
Water Information Saloon Shikoku
談話室 Vol 87

「こじゃんとうまい安芸の水」

高知県　安芸市長
松本（まつもと）　憲治（けんじ）

「こじゃんと」とは土佐弁であり、とっても、格別という意味です。私は、ほんとに安芸市は住み良いまちですと自慢げにＰＲしている陽気な市長ですが、手の届くところに海、山、森林、川、星空と豊かな自然がいっぱいあり、自然派の人間にとっては最高、何と言っても、豊かな自然には春夏秋冬の顔と味わいがありますね。

市街地から 20 分も歩けば、広大な太平洋と砂浜の海岸、鮎やえびが捕れる清流・安芸川と伊尾木川があります。江戸時代に三菱の創始者、岩崎弥太郎がよく泳いだ海、川であり、1956 年のメルボリンオリンピックの水泳 200mバタフライで銀メダルを獲得した石本選手もよく泳いだそうです。若い彼らには太平洋や清流と戯れながら大きな夢を抱いたことでしょう。岩崎弥太郎は、太平洋の向こうの外国に興味を持ち、長崎で、江戸で洋学を勉強して、世界貿易で躍進し、海上王と呼ばれました。

さて、伊尾木川の源流は徳島県境の四国山地、安芸川は香美市物部を境としています。2 つの川は、東川地区、畑山地区の緑濃き森林地帯を蛇行しながら、肥沃な安芸平野を潤し、河口部で隣り合ってわずか500mしか離れていない夫婦川です。

安芸市の地下水は、まっことうまいんです。私は、朝起きてまず一杯の水を飲み、これが元気の源となります。一生懸命仕事して一日が終わり、就寝前に一杯の水を飲みます。寝る前の一杯の水が明日への鋭気を養ってくれています。

13 年度に安芸川の水が環境省の水質調査で日本のベスト 4 位となり、市民が飲んでいた水が美味しかった証明となりました。安芸市は阪神タイガースのキャンプ地、この美味しい水を虎マーク入りボトルに仕立てて発売すればいいかもしれない？

四国山地に降った恵みの水は、日本一の生産量を誇るナスやピーマンなどの施設園芸や米の栽培に利用され、美味しい清酒や焼酎の清き水になっています。また、豊富な栄養を含んだ水は、太平洋に流れ込み、シラス（ちりめんジャコ）が好む良漁場となっています。市内の飲食店では、店ごとに味わいが違うシラスを使った「ちりめん丼」が有名ですので、是非食べに来てください。

海は、山の恋人、山が荒廃すれば下流域の自然が年々衰弱していきます。日本の山の国土保全がこのままでいいでしょうか。山に水があり、大森林から美味しい酸素が生産されることを大都会の人に分かっていただきたいものですね。私は、山の森林を見るたびに酸素ボンベを思い出します。森林は、都会に酸素ボンベ何億本を供給しているのだろうかと？

近年、企業等が積極的に森林の環境保全に力を入れていただくようになりました。高知県で最初に安芸市の内水面漁協組合が河川の保全を目標に民有林 104ha を購入、続いて企業誘致した電解コンデンサーの絶縁紙メーカーの日本高度紙工業が 240ha を購入して間伐の促進をするなど長期的な水源涵養林として森林保全協定を締結しています。

今度は高知県のご協力をいただき、東京の日本興亜損保と協働の森づくりを一緒に進めます。ふるさとの自然を守り、後世に伝えていくことが私たちの責務であります。

しらす天日干し

伊尾木川のあゆつり

うまい！かき揚げちりめん丼

伊尾木川上流のブナ林